

## 都倫研読書会のご案内

本年度、研究部では読書会形式の研究協議会を開催いたします。

『倫理』は扱う内容が難しく、誰もが自信をもって指導するのが困難な科目であると思います。まして、専門ではない教師が担当する時は、指導内容を深めるのがたいへん難しいというのが実際のところかもしれません。一方で、若い先生方を中心に、現在『倫理』を担当していないが、将来は担当してみたいという声や、機会があれば現代思想等を学んでみたい、本を読んで議論したいという声も耳にします。

かつて都倫研で複数の分科会を運営していた頃には、何回にも分けて本格的な原典を読む分科会もありましたが、今回計画しているのはそうではなく、比較的読みやすい新書版などの思想家入門書や、授業で取り上げることもできる基本的な文献を取り上げる読書会です。実際には年に2回程度の実施になると思いますので、基本的には1冊1回で読み進めていきたいと思います。参加者に事前に読んできてもらった上で全員で議論する形式を考えています。もちろん、読んでくることが出来ない方のために、担当者にエッセンスをレポートしてもらいますので、むしろ専門ではない先生方にも多く参加していただいて、気軽に話し合いながら、その成果を授業に生かせるような集まりにしたいと思っています。

課題図書例としては、次のようなものです。

- ・ 田中美知太郎『ソクラテス』岩波新書
- ・ ブラック『プラトン入門』岩波文庫
- ・ 橋爪・大澤『不思議なキリスト教』講談社
- ・ 石川文康『カント入門』ちくま新書
- ・ 永井均『これがニーチェだ』講談社
- ・ 熊野純彦『レヴィナス入門』ちくま
- ・ 頼住光子『道元の思想』NHK
- ・ 田中久文『日本の「哲学」を読み解く』ちくま
- ・ デカルト『方法序説』
- ・ カント『啓蒙とは何か』『プロレゴメナ』
- ・ ベンサム『功利主義論』
- ・ キルケゴール『死に至る病』

第一回目は夏の研究協議会（昨年は8月下旬）に、上野修『スピノザの世界』講談社現代新書を予定しています。

興味をもたれた先生にはご案内を差し上げますので、メールアドレスなどご連絡先を事務局までお知らせください。